



国民春闘共闘

第4号

2016年11月18日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館

☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

11・15 最賃・ディーセントワーク宣伝行動

労基法改悪法案を廃案に！ 最賃を今すぐ 1000 円以上に引き上げを！



全労連・国民春闘共闘・労働法制中央連絡会は11月15日に新宿駅西口で、「最賃・ディーセントワークデー宣伝」を行い、22人が参加した。

電通の過労自死が労災認定され、長時間労働の是正が注目される中、「過労死促進・残業代ゼロ法案の労基法改悪法案を廃止させよう」「最賃を今すぐ1000円以上に引き上げよう」と6人の弁士が訴え。全労連の岩橋副議長は、はじめに南スーダンでの自衛隊駆けつけ警護やTPP、

平和憲法を守ることの重要性を話した。労働法制の課題では「労基法改悪法案で、ホワイトカラーエグゼンプション、裁量労働制の拡大が狙われ、解雇の金銭解決も企まれている。労働時間法制の大改悪を許してはいけない。残業時間の上限規制、インターバル規制などを実現させよう」と呼びかけた。

全印総連の小澤中央執行委員はプリントパックの労働実態について「1日12時間の二交替、90時間の固定残業代が入って賃金は22万円で、基本給だけなら13万円。こういう安さで、プリントパックの低価格、即時性が成り立っている」と話し、「いのちを削って働くのではなく、8時間働いてまともに暮らせる賃金にしていこう」と訴えた。自治労連の杉本中央執行委員は「役所では3～4割が非正規で、最賃が上がると、賃金を上げないと最賃違反になる。ワーキングプアの賃金水準」と実態を報告。生協労連の中岡中央執行委員は、電通の過労死事件にふれ「長時間労働で心身がむしばまれる。異常な状態を改めさせる必要がある。生きるために働く、人間らしい働き方、ディーセントワークの実現を」と訴え、いのちと健康を守る全国センターの岡村事務局次長は「11月は過労死等防止啓発月間。過労死の労災申請は1,500件、うち認定された件数は470件でこれは氷山のほんの一角。そういう状況があるのに政府は労基法改悪法案を提出している。死ぬまでがんばれというもので、許すことはできない」と厳しく批判した。全労働の山脇中央執行委員は最賃の首都圏と地方の格差の問題、最賃がどうやって決まっていかなどについて丁寧に説明し「今すぐ時給1000円以上にすることが重要」と訴えました。

福井 ディーセントワーク宣伝



17日朝、早朝宣伝を行いました。参加者は10人で、チラシ900枚を配布しました。今回は、秋の総がかり作戦・早朝宣伝と合同ということで行い、ディーセントのチラシ、公務労組連のチラシ、県労連押し出しのチラシ、労働相談ティッシュと飴のセットをクリア封筒に入れての配布。横断幕に音出しもして、7時30～8時25分の行動でした。

鹿児島 ディーセントワーク宣伝

15日に、5組織13人の参加で、宣伝行動を行いました。駆け付け警護の閣議決定反対の宣伝と重なってしまい、30分だけでしたが、人間らしく働き、生きることの訴えは、関心を持ってもらえるなあと感じました。終了後のパ臨の役員会では、この間の各産別での行動の交流と今後のディーセントワークデーのとりくみ予定などを確認しました。さらに来春の17春闘での学習会の準備、最賃審議員の立候補の準備や労働局交渉などの準備を進めることも確認。



愛知 最賃違反をなくそう・適正な最低賃金求めよう宣伝



11月3日(木・祝)、名古屋市の繁華街(栄の丸栄スカイル前)で宣伝行動を開催し、6団体から11人が参加しました。愛知の最低賃金が10月1日から845円になったことを知らせ、「最低賃金違反をなくそう」「最低賃金はいますぐ1,000円以上に」と訴えてディーセントワークチラシとティッシュを配布しました。愛知の最低生計費結果も紹介し、「全国一律最賃制の実現を求める」署名への賛同も呼びかけました。6月におこなった「適正な最低賃金はいくら？」とし

たシール投票にもとりくみ、1時間で43人に聞き取り。現行最賃845円（1人：2%）、政府目標1,000円（12人：28%）、生計費額1,300円（11人：26%）、全労連目標1500円（16人：37%）、国会議員時給11,500円（3人：7%）の結果が示され、1,500円を求める声が多数派であることがわかりました。

6月におこなった際は、3時間で103人から聞き取っていますが、その結果と比較しても希望額は上がっています。

